



Vol.
55

SPECIAL STEEL

March/2015

すてい~る

目次

●特集 平成27年「新年賀詞交換会」

●平成27年「新年賀詞交換会」開催	1
●各支部でも新年賀詞交換会	5
●いま世界へ! 各社が取り組む海外展開事例—大洋商事(株)	7
●新・支部長訪問 日下俊之 (有)クサカ鋼材代表取締役	8
●新・支部長訪問 渡邊洋一 (株)ユアーズスチール代表取締役	9
●理事会・委員会報告	10
●事務局だより・編集後記	裏表紙



一般社団法人全日本特殊鋼流通協会

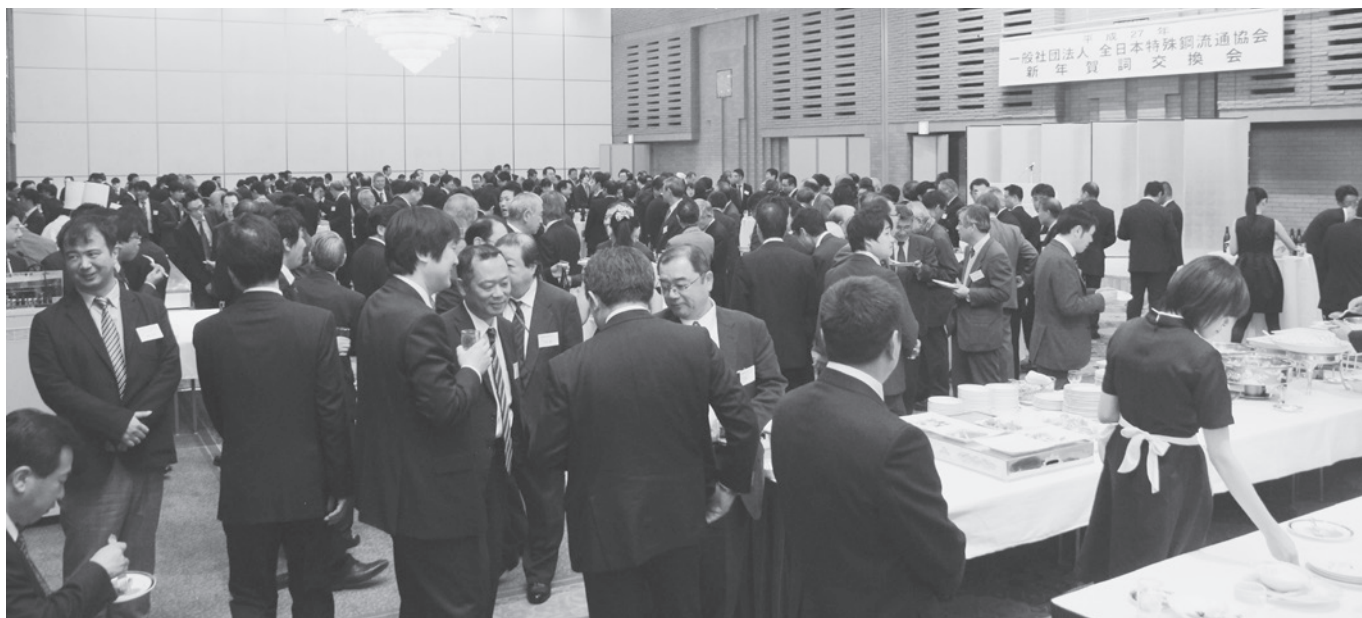
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号(鉄鋼会館)

TEL.03-3669-2633・2777 FAX.03-3669-0395

ホームページ <http://www.zentokkyo.or.jp>

E-mail info@zentokkyo.or.jp

(一社)全日本特殊鋼流通協会 平成27年「新年賀詞交換会」開催



佐久間新体制となり初の新年の門出を祝う 450名の参加者で活気あふれる盛会に

全特協では平成27年1月20日(火)、東京・市ヶ谷の「グランドヒル市ヶ谷」において、『平成27年新年賀詞交換会』を開催した。約450名の参加を得て催されて賀詞交換会の冒頭では、昨年6月に新会長として就任した佐久間貞介氏(佐久間特殊鋼・代表取締役執行役員社長)が、「特殊鋼業界発展のため、中長期観点から今まで以上の人材育成の積極化」「新会員募集の積極化」「スポーツ・音楽・芸術など様々な分野の交流活動を含めた魅力あふれる協会活動の展開」など、新年の抱負を掲げて挨拶した。

ご来賓を代表してあいさつに立たれた山下隆也・経済産業省製造産業局鉄鋼課長は、法人税の引下げ改正や省エネ補助金など政府の取り組みを紹介しながら、「高騰する仕入原価の価格転嫁について、数千社へのアンケート調査も踏まえて取引慣行ガイドラインに反映していく。競争力優位な特殊鋼を、

サプライチェーンも含めて発展するよう皆様と一緒に汗をかいていきたい」と、特殊鋼業界へエールを贈られた。

武田安夫・特殊鋼倶楽部会長(山陽特殊製鋼・代表取締役社長)のご発声で乾杯した後は、全国より参集した正会員・賛助会員が懇談。佐久間新体制となって初めての新年の門出にふさわしい活気あふれる雰囲気の中、やはり6月に就任した碓

井達郎・東京支部長(碓井鋼材・代表取締役)の三本締めで盛会のうちに散会となった。



全特協会長 年頭のあいさつ

(一社)全日本特殊鋼流通協会 会長 佐久間貞介

人材育成、強固な組織づくり、魅力ある事業の実現で 全特協の活性化を図っていきたい



昨年末から、株高・円安・原油安などともに、アベノミクスの効果と相まって総じて日本経済は良い方向に転じはじめております。しかし、特殊鋼流通業界におきましては、世間で言われておりますような右肩上がりの景気状況から見ますと、少々様子が異なり、業界景気は一進一退の状況が続いております。それは、当協会が実施している四半期ごとの業界景気調査においても伺うことが出来ます。ご存じの通り当業界は、中小企業が大多数を占めており、日本経済の好況感には必ずしも比例していないように見受けられます。

昨年末から今年にかけて、政府はいろいろな対策を講じられました。まずは総額3.5兆円にのぼる経済対策を決定するとともに、来年度の予算も総額96兆3420億円と過去最大の予算を編成しております。また、昨年末の段

階で政府の税制改正もまとめ、ご存じのように「法人実効税率」を2.51%引き下げることが決定されております。これらの経済対策や減税は、今後日本の経済を活性化して、さらにその効果がわれわれ会員企業にも波及し、大企業だけでなく中小企業を含むすべての企業、さらには国内のあらゆる地域において景気が良くなるよう期待するとともに、それらを追い風としてわれわれも自助努力を欠かさず、業界全体の景気を良い方向へ押し上げてゆけるものと信じています。

このような状況のもと、全日本特殊鋼流通協会におきましては、今年は何をなすべきか年頭に当り、考えてみました。

まず、第一には業界の中長期的観点から、業界発展の足固めをしっかりすることが大事だと考えます。具体的には、われわれ流通業界の貴重な財産である「人材」に注目し、人材育成を今まで以上に積極的に行っていく必要があると考えます。私どもの業界は、機能材料である特殊鋼をお客様に正しく使用していただくために、最新の材料知識や加工知識を身につける必要があります。その意味で、当協会が行っている販売技士や加工技士の研修制度を、さらに充実させてゆきたいと考えています。おかげさまで、当協会の研修事業を通じて資格認定を受けた方々が、昨年までで延べ2万人を超えました。

流通業界において一番重要な資源である「人材」を育成する努力を続けたいと考えております。

二番目は、当協会の組織自体をより強固なものにしたいと考えております。具体的には、新たな会員を積極的に募ることです。特殊鋼を扱う仲間の方々が一人でも多く増えるよう努力いたします。また、関連する団体と様々な交流を深めることにより、共存共栄する手段を見つけ、具体的に行動することが大切であると考えております。

三番目に、当協会の活動を魅力あるものにしなければなりません。流通業界としての信頼を醸成するにはどうしたらいいか、さらには業界の発展につなげるためには何をすべきかを考え、魅力ある活動を展開していきたいと考えております。現在は特殊鋼を扱う業界はもとより、世の中の製造業全体がすさまじい勢いで進化をしております。例えば自動車業界においても「知能化」をキーワードに新たな世界に向けて、大きな変革をはじめておられます。このような流れに対して、我々流通業界も的確に対応していかなければなりません。そして、今後業界がどのような方向に向かっていくべきか考える必要があるかと思えます。特に、特殊鋼流通業界の将来を担う若い経営者の皆様とともに、将来の業界の在り方をおおいに話し合っていきたいと考えております。また、会員間の団結を一層強固なものにするために、スポーツ・音楽・芸術など様々な分野で協会の全支部を巻き込んだ交流活動の実現を検討してゆきたいと考えております。

最後になりましたが、本年が特殊鋼業界はもとより鉄鋼業界全体にとって、さらなる飛躍を遂げる年となるよう御祈念申し上げて、私のご挨拶いたします。



(一社)全日本特殊鋼流通協会 新年賀詞交換会

平成27年1月20日(火) グランドヒル市ヶ谷

ご来賓祝辞

経済産業省製造産業局 鉄鋼課長 山下隆也 様

法人税改正のほか各種補助金、 価格転嫁促進で業界を支援



政府として少しでも皆様方の事業環境の整備に役立つように、いろいろな政策を進めています。その一つが税制改正で平成27年度は2.51%の引下げが決まっています。しかし、これで終わりではなく早期に20%台に引下げるこ

とが決まっているので、28年度以降も引き続き財政当局と掛け合っています。もう一つは3.5兆円におよぶ緊急経済対策で、いろいろなメニューがありますが、皆様方に多少関係あるものとして省エネ補助金、ものづくり補助金などの補助金があります。特に、省エネ補助金については例えば、事業所の証明器具をLEDに置き換えるなどの簡易な申請でも対象になっています。さらに、中小企業の皆様方やエネルギー多消費産業の皆様方に対しては、通常補助率1/3を1/2に引き上げるという措置も講じています。必ずしも事業所に加工施設・製造設備をお持ちでない方々も含めて利用可能な制度となっています。新たな取り組みとして、取引慣行の是正にも注力しています。流通段階が多岐にわたり仕入価格の高

騰を売価に価格転嫁しづらいという状況の中、現在、政府全体として適正な価格転嫁をお願いするということを、さまざまな賀詞交換会の場をお借りして、私自身もお願い申し上げます。鉄鋼業界についても数千社に及ぶアンケート調査を行い、適正な価格転嫁しているかという項目を設けて調査結果を集計しています。鉄鋼分野では取引慣行ガイドライン制度にも反映し、2月上旬にはガイドラインを改正する予定です。日本の鉄鋼業の中でも、とりわけ競争力が優位に立つ特殊鋼をサプライチェーンも含めて、ますます発展させていくことが、この業界のみならず、日本の経済にとっても非常に重要であると認識しています。今年は、ぜひ皆様方と一緒に汗をかいていきたいと思っています。



乾杯ご発声

(一社)特殊鋼倶楽部 会長 武田安夫 様

強い意志をもった楽観主義で 課題・難題に挑戦していこう



昨年を振り返ると、世の中の事象が非常に顕著に振れ幅が大きかったと感じています。まさかの御嶽山の噴火、そして広島土砂災害など、多くの自然災害が起きました。また、海外に目を転じますと、イスラム国の台頭、それからウクライナ情勢の混迷化、原油の乱高下、そしてエボラ出血熱の流行がありました。

また、日本に目を転じますと、まさかの想定外のGDPの2期連続のマイナス成長で、消費税増税の先送り、ひいては、これも想定外でしたが解散総選挙につながりました。

特殊鋼業界では特殊鋼の鋼材生産は2100万トン弱ということで、自動車業界の好調に支えられ、また強固なサプライチェーンにも支えられ、一昨年に引き続き2000万トンの大台を達成することができました。ただ、先ほど佐久間会長の言葉にもありましたように、2000万トンを超えた感じがあまりせず、喜びもなんとなく実感がないと考えています。

あれほど悩まされた原材料価格も、いまは下落しておりますが先行き含めて不透明です。それから特殊鋼電炉に

ついては、まさに死活問題である電力問題ですが、安全性確認の審査が終わった原発も再稼働に手間取っている現状で、追い打ちをかけるように原油の問題も出てきています。このようにいろいろあるわけですが、世の中に課題や難題は付き物と考えております。

年初の経済三団体の賀詞交歓会で安倍首相は「わたしは楽観主義だ」と述べていました。「悲観は感情だが、楽観は意志なんです」という力強い言葉をおっしゃっていましたが、まさに言い得て名言だというふうに考えております。我々も強い意志をもって楽観主義でいろいろな課題、難題に挑戦して、今年一年が特殊鋼業界にとっていい年になるよう、皆さんとともにがんばっていききたいと思います。

中締めあいさつ

(一社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部長 碓井達郎

皆様の会社の繁栄と安全第一 佐久間新体制での協会の盛り上げを祈念

お集まりいただきました皆様、長時間お付き合いいただきありがとうございます。2015年も、ここにいらっしゃる皆様の会社のご繁栄と安全第一、そしてここにいらっしゃる皆様のご健康とご活躍、ならびに新しくスタートした

佐久間会長のもと全日本特殊鋼流通協会が皆様大勢の参加で盛り上がるように祈念いたしまして、大きな声で元氣よく三本締めで中締めしたいと思います。



各支部でも新年賀詞交換会

東京支部

開催日時：平成27年1月20日(火)

開催場所：グランドヒル市ヶ谷

出席者：450名

(一社)全日本特殊鋼流通協会との合同開催

大阪支部

開催日時：平成27年1月5日(月)

開催場所：リーガロイヤルホテル

出席者：約750名

[大阪ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部大阪支部との三団体共催]

恒例の参加者全員による国歌「君が代」斉唱の後、3団体を代表し、今井隆・大阪ステンレス流通協会理事長が「古来、地域や地区、宗教を問わず食された末のように特殊鋼・ステンレスは全産業に活力を与える基調な栄養源として、今年、日本経済の発展のため力を結集して頑張りましょう」とあいさつ。力強く平成27年の特殊鋼・ステンレス業界のスタートを告げた。

続いて来賓を代表して玉野直毅・近畿経済産業局産業部次長があいさつ。松井一郎・大阪府知事の祝辞を代読と進み、関公彦・特殊鋼倶楽部大阪支部支部長が「昨年の消費税の反動減が秋口から出てきたのでしょうか、景気が少し足踏み状態となり、我々を取り巻く事業環境も『堅調だと思ったほど良くない』といった印象ではないかと思います。」一方、12年1月に1ドル＝76円だった為替が、米国の金融緩和終了を意識して、昨年9月以降急激に円安ドル高が進行。足元では1ドル＝120円と1・5倍以上変動したことを挙げ「われわれを取り巻くビジネス環境はわずか3年間の間に大きく変化しております。こうした変化のスピードの中で、われわれはこれまで以上にメーカーと流通が一体となってこの激流を乗り越え、国内外のマーケットで競争力を強めていく必要があります。今こそ一社一社が高い目標を掲げ、着実にその達成に向けて、努力して行こうではありませんか」とあいさつして乾杯の発声をし、懇親会へと進んだ。

懇親会は約750人の参加者で多いいに賑わいをみせる中、例年どおり流れ解散でお開きとなった。



▲恒例の「君が代」斉唱



▲あいさつする今井隆大阪ステンレス流通協会理事長



▲乾杯発声をされる関特殊鋼倶楽部支部長

名古屋支部

開催日時：平成27年1月7日(水)

開催場所：名古屋観光ホテル

出席者：417名

[名古屋ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部名古屋支部との三団体共催]

冒頭、来賓を代表し嶋田明彦・経済産業省中部経済産業局産業部製造産業課長が「ものづくり産業の競争力の根幹を支えている基礎素材、特殊鋼の果たす役割は大変大きく、我が国産業の源泉だ。経済本格回復に向けた強いけん引役となることを期待している。」とあいさつ。

続いて樋已芳支部長(辰巳屋興業・代表取締役)が「今年は未年。羊は皆で動くとか、繁栄するといった意味がある。我三団体は、確かに現在市況が厳しいかもしれない、難しいことがあるかもしれない。しかし、やればやるほど仕事生まれるのが我々の業界だ。ステンレス、工具鋼、構造用鋼でも仕事は山ほどあるはずだ。自らが手掛けている仕事を『宝の山』だと捉え、価格は値切るのではなく高く売ろう、付加価値をどのように高めようかということを考えるべき。これから全ての数字が右肩上がりとなるよう祈念して乾杯したい。」と乾杯の発声。会は和やかに進み、山中敏幸・特殊鋼倶楽部名古屋支部長(愛知製鋼・取締役)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲樋支部長による乾杯の発声



▲山中特殊鋼倶楽部支部長による中締め

東北支部

開催日時：平成27年1月22日(木)
開催場所：仙台国際ホテル
出席者：60名

小室清志(藤田商事・執行役員東北支店長)の司会のもと、冒頭で日下俊之支部長(クサカ銅材・代表取締役)は「改めまして、新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。」と新年のあいさつを述べた後、昨年の東北支部の事業に触れ「北関東支部と共催で行った富士重工業と日野自動車の工場見学会は、会員の皆さん方のご協力もあって大変好評で成功裡に終わることができました。今年はこの共催事業をホスト支部として東北地区での実施を検討していきたいと思いますので、皆さん方のご協力をよろしくお願い致します」と述べた。その後、来賓を代表して伊藤秀史・大同特殊鋼工具鋼営業部東京営業室長があいさつ。乾杯の音頭は、本郷貴之(ボーラー・ウッドホルム・エリアマネージャー)が務め、和やかに会は進み、渡辺康雄(アマダマシンツール・東北ブロック)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲あいさつする日下支部長



北関東支部

開催日時：平成27年2月2日(日)
開催場所：伊香保温泉「ホテル木暮」
出席者：20名

斎藤和彦・青山特殊鋼営業課長の司会のもと、長谷川弘和支部長(長谷川ハガネ店・代表取締役)が「昨年は、特殊鋼販売加工技士基礎編を行い、出席者からは実務的で良かったというお声を頂きました。また、北関東支部、東北支部合同工場見学を行い、30名の御参加を頂き、富士重工業矢島工場と日野自動車新田工場を訪問することができました。どちらの事業も近年では新たな試みで、会員の皆様には満足頂けたと考えています。今後も有意義な事業を行って参ります。ご協力を宜しくお願い致します。」とあいさつ。惣名健・日本高周波鋼業工具鋼営業部課長が今年の市況展望を述べた後、伊藤龍也本部業務部長の乾杯で懇親会へと進んだ。終始和やかな雰囲気のもと、鈴木至典副支部長(鈴木機械・代表取締役)の中締めで盛会のうちに散会となった。



▲あいさつする長谷川支部長



静岡支部

開催日時：平成27年2月23日(月)18:00～
開催場所：静岡グランドホテル中島屋
出席者：17名

浅井達也副支部長(佐久間特殊鋼・浜松支店長)の司会のもと、冒頭、原博康支部長(東京鋼機・代表取締役)が新年のあいさつを述べた後、「佐久間新体制になり、人材育成事業の更なる強化が方針の一つになっています。静岡支部に於いても昨年特殊鋼販売技士3級を実施したことから、新年度は2級講座の開講を計画していますので、認定資格者の受講促進にご協力をお願い致します。研修制度改革により同一年度で1つの級しか受講できなくなったため、今後は3級・1級と2級とを隔年で開講していきます。」と事業方針を説明した。続いて三上忠明副支部長(ノボル鋼鉄・専務取締役静岡支店長)の乾杯の発声で新年を寿ぎ和やかに歓談が進み、伊藤龍也全特協本部業務部長の三本締めで散会となった。



▲あいさつする原支部長



九州支部

開催日時：平成27年1月6日(火)
開催場所：ホテルオークラ福岡
出席者：220名
[九州ステンレス流通協会との共催]

冒頭、主催者を代表して池尻英世・九州ステンレス流通協会理事長が「過去の未年にあやかっ、業界が『穏やかな上昇気流の年』になりますように」とあいさつ。続いて来賓を代表して下津浦一博・経済産業省九州経済産業局地域経済部製造産業課課長のあいさつ後、牧戸武彦・大同特殊鋼・福岡営業所所長の乾杯の発声で会は進み、終始和やかに懇談が行われました。



▲牧戸氏による乾杯の発声



[シリーズ連載] 第6回 大洋商事株式会社 いま世界へ！各社が取り組む海外展開事例

ここ数年の為替変動とともに成長拡大するアジア市場をにらみ、自動車部品を中心としたメーカー各社の海外生産へのシフト。また、輸入鋼材の調達も一般化する中であって構造用鋼などの国内需要が頭打ちになる中、総合商社だけにとどまらず、特殊鋼流通各社も規模の大小を問わず、海外に拠点を構える動きが顕著になっている。海外展開にあたっての留意点は何か。シリーズ連載の第6回は、中国現地法人をメインに韓国、タイと海外展開する大洋商事の北信一社長に、海外ビジネスのケーススタディをうかがってみた。



代表取締役社長
北 信一 氏

“顧客ありき”のマインドで海外への機運を 社員一丸となって素早く捉える社風

高い社員定着率を誇る現地法人

大洋商事の海外拠点は2004年2月、中国・浙江省平湖市の大洋特殊金属の開設からスタートした。きっかけは昭和20年代から取り引きのある産業用変速機・減速機メーカーが中国での生産を開始することになり、当時は品質の高い鋼材の現地確保が難しいことから、大洋商事に現地での加工・納入を行ってほしいという要請に応えたものだった。

「ちょうど、中国市場への展開を検討していたときだったからタイミングとしては抜群によかった。当時、中国に会社を作るには1年以上かかるのが一般的だったが、顧客メーカーの信用力と後押しで中国政府筋の対応も素早く、申請から4か月ほどで現地法人を立ち上げることができた」と、当時の担当で初代総経理も努めた北社長は振り返る。

当初は、国内から素材を現地法人に送り、現地で切断・加工して顧客に納入するフローだった大洋特殊金属も、現在では素材の現地調達や検査も行う。社員規模は、日本人社員2名のほか北社長と立ち上げにかかわった国内採用の中国人社員1名、現地採用スタッフ22名という陣容。

「好条件の他社があると、すぐに転職してしまう中国の労働事情がありますが、当社現地法人の場合、離職率が低いのが特徴です」と北社長は胸を張る。開設から11年を経て、北社長が現地で採用したスタッフが勤務しているほどで、財務・経理という中枢を担うスタッフは会社立ち上げ時からの古参メンバーだ。

「ありがたいことです」と前置きしながら現地スタッフ定着率の秘訣をうかがってみたところ、その答えは実にシンプル

だ。

「みんな、同じ釜の飯を食っている仲間という意識をもって、同じように扱えば言葉は通じなくても分かりあえ、こちらのことも理解して働いてくれる。一緒に苦労して、喜びを分かちあうということです」(北社長)

製造・加工、検査から商社機能も拡大

中国には、いま1社、商社機能を有する大洋商貿も2006年6月から営業している。大洋特殊金属は特定メーカーとの取り引きだけだが、そのグループ企業ほか、国内で取引実績のある日系企業各社とのビジネス拡大を狙って設立された。大洋商貿の本社は平湖に置くが、高速鉄道でアクセスも便利な上海にも営業所を開設。そのほか温州で特定メーカーの製品検査スタッフを常駐させるほか、重慶にもサテライト事務所がありアッセンブリー製品の納入を行っている。

平湖・上海を拠点にする大洋商貿は現地スタッフ6名の体制で蘇州方面の現地日系企業との取り引きも拡大。大洋特殊金属とあわせて採算も順調で、大洋商事の海外事業の要となっている。

中国以外では、2008年11月からプラント関連の設備・部品の品質管理をする大洋コリアを韓国・釜山に開設。日本に輸出される前の韓国製品を検査業務を担う法人だが、この2月に日本人社員を一人常駐させ、今後は商社機能を強化し、取引拡大を狙うという。

さらに、2012年2月にはタイにも自動車関連メーカーへ、国内で製造した部品を納入する商社窓口となるサイアム大洋商事を設

立。こちら、他の日系企業との取り引きがはじまりつつあり、今後は倉庫や製造設備の導入に向けて調査・検討が行われているという。

顧客ニーズに素早く対応する海外マインド

中国、韓国、タイに加えて、現在、数名の社員プロジェクトでインドネシアへの進出も検討されているという大洋商事だが、旺盛な海外事業意欲はどこからきているのだろうか。

「国内で既存顧客に営業していれば、自然に海外への展開が話題にのぼるのが今の製造業の現状です。アメリカに出たという社員もいる。お客さんありきで、そうした流れは認識せざるを得ない」と北社長。

そんな背景で海外への意識も高い大洋商事だから、社員発案で定期的な英語勉強会もはじまるという。

「九州支店などは韓国・中国からの仕入れも多いので、常に誰かが現地に出張している状態。今後も、国内の既存取引先の動向を見極めながら、社員とともにフットワークよく海外のチャンスをつかんでいきたいですね」と、アクティブな姿勢をみせる。



中国現地法人の工場ヤード全景

新・支部長訪問

東北支部

有限会社クサカ鋼材
代表取締役 日下俊之



他支部との共催事業など模索しながら 会員の参加率をアップさせる事業提案を急務に

■会員の出席率アップを目指して、魅力的な支部運営を模索

昨年6月の役員改選で支部長に就任。前々任の横山大氏(横山鋼業・代表取締役)、前任の森高臣氏(関東鋼鉄・代表取締役)とは1歳下の1969(昭和44)年5月生まれの45歳。副支部長には横山氏、相談役(顧問)に森氏が回る形で新東北支部の執行部がスタートしており、若手グループでローテーションする体制ができあがっている。

東北支部の課題としては、この数年、各支部とも共通で抱える会員の漸減傾向にどう対応するかということである。販売技士検定を募ると従業員を受講させる会員は多いので、教育・資格制度としての協会の存在意義は、まだまだ大きいものがあると捉えているが、その他の定例会やイベントに出席されない会員が目立つ現状がある。そのため、より魅力ある事業提案をして、有意義な支部運営をアピールしていくことが任期中のテーマだと考えている。

「これは森前支部長のアイデアでしたが、昨年11月に北関東支部と共催で群馬の富士重工と日野自動車に合同の工場見学会を開催しました。北関東支部がホストとしてご尽力いただいたことで、有意義な見学会になったばかりでなく、他支部の会員と交流がもてたことも収穫でした。次は東北支部がホストとして、北関東から皆さんに来ていただくに値するイベントを考えなくてはいいですね」と、他支部との共同を踏まえた抱負を語る。

■中長期を見据えて他地区とのネットワークも広げる場にしたい

「他支部との交流が、すぐに実務に反映されるわけではないですが」と前置きした上で、「ますます少子高齢化が進むであろう5～10年後を見据え、これまで以上の情報の交換や共有化をすすめていきたい。会員同士が、お互いに仕事をしやすくなる環境を整えていけるよう考えられるベースとして、全特協の支部運営が役に立てばと思う。人材確保にしろ、設備投資にしろ需給を見極めながら慎重な対応が続く中、横のネットワークを広げることで仕事を柔軟にやりくりする環境を地域間で考えていける場になれば」と、今後の協会のあり方も提案する。

幸い、同年代の経営者がそろっているベストなタイミングでもある。5年、10年、15年というスパンで、業態の変化にも対応できる業界づくりのベースとして、東北および北関東の支部活動に注目していきたい。

■精密加工を得意とする会社の、アクティブ志向な経営者

1982(昭和57)年に創業したクサカ鋼材は、プラスチック金型の需要家向けの工具鋼販売をメインに、福島県相馬市に一次加工工場を置き、岩沼の本社工場でマシニング、機械精

密加工などの二次加工を行う生産体制をとっている。

「金型向け以外では治工具関係のほか、一般鋼材も含めて取り扱います。少数精鋭で付加価値ある製品を送り出す、加工力を重視しており、二次加工についても寸法・面精度を出す、研削加工にも力を入れています。高精度な製品を、短納期でデリバリーするという体制でお客様からの評価をいただいていると感じています」と自社の強みをアピールする。

創業者の現会長から経営を引き継ぎ、社長に就任したのが2012(平成24)年のこと。現在、従業員の平均年齢は30代半ばと若めなので、社内コミュニケーションでも世代の中心近くにある社長として気を配っているとか。

趣味はハイキングやジョギングなど体を動かすことが好きだ。

「妻の両親が長野の駒ヶ根にいますので、帰省の折には上高地や乗鞍、千畳敷カールなどの散策を楽しんでいます。学生時代は体育会系だったので、体を動かすことは苦にならない方。体調管理を目的に走り、仕事終わりに10km程度のランをこなすこともあります。走り終えた後の達成感や爽快感もストレス発散に役立ちます」とアクティブ志向の支部長だ。

【日下俊之氏 略歴】

明治大学法学部卒業後、1993(平成5)年に大同特殊鋼に入社。川崎工場で生産管理を担当する。1999(平成11)年にクサカ鋼材に入社し、2012年に代表取締役役に就任。支部長経験者の横山氏、森氏とは奇しくも同じ大同特殊鋼出身。両氏は共に渋川工場の配属で、日下支部長は異なるが「共通の知己もあり、先輩後輩の意識で話題も共有しながら腹を割って話せる関係」とのことで、支部運営においてもベストチームとなっている。

新・支部長訪問

九州支部

株式会社ユアーズスチール
代表取締役 渡邊洋一



支部運営の分担効率化を図るとともに 初の定時総会開催地としての役割を担う

■少数精鋭・九州支部の新支部長として 昨年6月に初の就任

昨年6月の役員改選で、吉永博・前支部長(特殊鋼機・代表取締役)の後を受けて新支部長に就任した。

「九州支部は当社を合わせて正会員は5社と少ない。そのうち、特殊鋼専門の地元オーナー企業はケイ・エス・スチール、特殊鋼機の3社。ケイ・エス・スチールの濱下社長は最近就任されたばかりで、まだお若い。そんなことで、しばらくは特殊鋼機の吉永さんと持ち回りでやるしかない」と、初めての支部長就任についての経緯を笑いながら説明する。ちなみに、特殊鋼機・吉永社長とは同級生で“お前・俺”と呼び合う間柄とか。九州支部を当面リードする2トップとしては阿吽の呼吸もバッチリ。九州の特殊鋼業界の活性化と後進の指導・育成に力を合わせて取り組んでいくことになる。

■事務局体制を刷新し、他団体との連携を強化しながら支部活性化を

九州支部の活性化のために何ができるか？ということが当面のテーマになるが、業界自体がシュリンクする傾向にある中、新規会員の獲得は厳しいと渡邊支部長は感じている。

「少ない地元企業が増えることは考えにくい。九州全域で見渡しても、熊本や鹿児島、あるいは宮崎などに中小の二次店はあるようですが普通鋼と兼ねているなど、特殊鋼メインの会社というのはなかなかない。需要地という背景もありますから。そうすると、九州支部といっても北九州を中心とした“福岡支部”という実態にならざるを得ないところ

がある」と、現状を踏まえた上で支部運営を考えざるを得ないという渡邊支部長。そうすると、以前より連携を深めている九州ステンレス流通協会との共催事業の強化などが、より重要になってくるという。

「賀詞交換会や毎年恒例となっている『はがねの日』の清掃ボランティアと野球観戦はもちろん、昨年9月に行った工場見学会などの研修事業では、九州支部単独ではなかなかできないことを他団体との協業メリットで充実化する流れを継続していきたい」と渡邊支部長。

そのほか、渡邊支部長就任に合わせて、今期から事務局体制を刷新し、各運営委員の負担軽減を図っているという。

「これまでは三鋼販西日本の津村さんに、事務局を長くやっていただいていたが、事務局一箇所にはさまざまな行事の負担がかかるということで、今期からは1年ごとの持ち回り制で支部会員の支店・営業所に担当してもらうことになりました。それも、すべての業務を一箇所に集めるのではなく、賀詞交換会の出欠担当はだれ、販売技士の試験担当はだれ、というふうに運営委員ごとに係を決めて負担を分散するようにしています」

支部会員も支部運営に不可欠な、

少数精鋭体制だからこそ、役割を無理なく分担していこうという発想で渡邊新体制のもと九州支部は動き出している。

■6月の定時総会の開催共同ホストとして 意気上がる九州支部

九州支部の来期の一大行事は6月に予定されている協会本部総会の開催地となっていることだ。

「地方支部との交流の場として総会に新しい意義を盛り込んだ機会としたい、というような佐久間会長の提案で、主催は名古屋支部ですが九州支部共催ということのできることは協力して成功させようということになりました」と渡邊支部長。

現在、名古屋支部の役員や事務局とやりとりしながら、総会および付属するイベントの詳細を詰めるのに忙しくなっている。

「九州という遠方での開催ながら、参加見込みは例年どおりの盛会になりそうです。関西以西の会員企業は中国地方や九州に出先をお持ちのところも多いでしょうが、関東以东では少ないはず。なかなかお会いできない会員様も、この機会に多数お目にかかることができればと思っています」と、間もなく迎えるイベントの準備に力が入る渡邊支部長である。

【渡邊洋一氏 略歴】

福岡県立小倉西高卒業後、東京でいくつかの職業を経験。昭和49年、北九州のツツミ金属に入社。主に営業畑を歩み、平成元年7月に独立し、ユアーズスチールを設立。構造用鋼、ステンレス鋼、工具鋼など各種マテリアルの納入から、加工、熱処理のほか樹脂、鋳物などの関連部材の調達まで、さまざまなユーザーニーズに対応するコンビニエンス的な手法で存在感を発揮。昭和23年10月26日小倉市生まれの66歳。

理事会・委員会報告

■運営委員会

○第7回運営委員会

- 日 時：平成27年1月20日 15：30～17：00
於：グランドヒル市ヶ谷「翡翠の間」
- 内 容：1. 平成27年度の事業方針と同年度の予算について
2. 事務所移転問題について
3. 協会の収支改善について
4. 支部報告、委員会報告について
(平成27年度定時総会の開催について)
5. その他(次回理事会の日程等)

■人材育成委員会

○第6回人材育成委員会

- 日 時：平成27年2月24日 15：00～17：00 於：鉄鋼会館
- 内 容：1. 平成26年度人材育成事業実施状況について
2. 指導要領作成WG活動報告について
3. 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)について
4. 販売技士制度の課題について

【特殊鋼販売技士検定試験委員会】

○第27回指導要領作成ワーキンググループ

- 日 時：平成26年11月26日 14：00～17：00 於：安保ホール
- 内 容：1. 第26回WGの議事録について
2. 特殊鋼販売技士1級指導要領作成について
3. 次回のWG会議日程について

○特殊鋼販売技士検定試験委員会

- 日 時：平成27年1月8日 15：00～16：30 於：鉄鋼会館
- 内 容：1. 特殊鋼販売技士研修制度改定について
2. 平成26年度特殊鋼販売技士1級研修講座・講師事前打合せ
3. 特殊鋼販売技士1級検定試験の試験問題概要について

○第28回指導要領作成ワーキンググループ

- 日 時：平成27年1月27日 14：00～17：00 於：安保ホール
- 内 容：1. 第27回WGの議事録報告について
2. 2級指導要領資料データのメンテナンスについて
3. 当ワーキンググループの活動報告について

○1級問題選定会議

- 日 時：平成27年2月18日 15：00～16：30 於：安保ホール
- 内 容：1. 1級研修講座の検定試験問題について
2. 検定試験、採点及び合否判定などスケジュールについて

■調査研究委員会

○第7回調査研究委員会

- 日 時：平成27年11月27日 15：00～17：00 於：大阪・鉄鋼会館
- 内 容：1. 第71回(7～9月)景況アンケート調査報告
2. 第72回(10～12月)景況アンケートの設問について
3. 第13回経営環境等に関するアンケートの設問について
4. 次回委員会日程について

■内外交流委員会

○第3回内外交流委員会

- 日 時：平成26年12月3日 15：00～17：00 於：安保ホール
- 内 容：1. 平成26年度事業実績及び収支実績見込みについて
2. 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
3. その他

○第4回内外交流委員会

- 日 時：平成27年2月25日 15:00～17:00 於：安保ホール
- 内 容：1. 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)について
2. 平成27年度の海外視察研修の概要について

■経営効率化委員会

○第3回経営効率化委員会

- 日 時：平成27年2月17日 15:00～17:00 於：安保ホール
- 内 容：1. 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)について
2. 今後の経営効率化事業の検討について
3. 次回委員会日程について

■広報委員会

○第6回広報委員会

- 日 時：平成27年2月12日 15：00～17：00 於：鉄鋼会館
- 内 容：1. 広報誌「すていーる55号」の記事配置等について
2. 「すていーる56号」の内容について
3. 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)について
4. 「はがねの日」の記念事業について

■青年部会

○第5回運営委員会

- 日 時：平成26年11月7日 15：30～16：40
於：ザ・カワブン名古屋
- 内 容：1. 青年部会今後の日程及び内容について
2. 「はがねの日」事業(アピール用小物の作成)について
3. 平成26年度の予算実績見込及び平成27年度事業計画(案)の考え方について
4. 講演会：経営プランニング社 代表 岩崎清美氏
演題：商品・価格に頼らずに感動の世界でお客様を虜にする感動経営

○第6回青年部会正副部会長会議

- 日 時：平成27年2月6日 15：30～17：00 於：大阪・鉄鋼会館
- 内 容：1. 第6回運営委員会の内容について
2. 平成27年度事業計画(案)及び予算(案)について
3. 第3回定時総会の内容について
4. はがねの日アピール用小物の作成について

事務局だより

①「第3回定時総会」の福岡市開催について

平成27年度の第3回定時総会は九州福岡市での開催が下記スケジュールで決定いたしました。

九州地区では初めての開催であり、地方支部との交流の場としていただくために、会員各位の多数のご参加を心よりお待ちしております。

(1) 開催日程：平成27年6月1日(月)14:00～18:30頃

定時総会、講演会、懇親会を予定

(2) 開催場所：「ホテルオークラ福岡」4F 平安の間

(3) 翌日行事：平成27年6月2日(火)観光組(工場見学)又はゴルフ組

・観光組は大宰府天満宮⇒柳川⇒昼食を中心にプラン作成中

・ゴルフ場は「古賀ゴルフクラブ」を予定

詳細に関しては、現在幹事役の名古屋支部と九州支部にて詳細を詰めております。

あらためて正会員及び賛助会員各位には、4月中旬以降正式にご案内致しますので、よろしくお願い致します。

② 特殊鋼販売技士「入門編」及び「3級」の研修講座開講について

(1)「入門編」研修講座

毎年年度初めの時期に、特殊鋼販売技士研修制度のスタートとして「入門編」を実施しております。

平成27年度も下記の支部にて開講を予定しておりますので、奮って受講下さるようお願い致します。

「入門編」の研修内容は、特殊鋼を学ぶために必要な金属(鉄・非鉄)の基礎知識で、受講資格は特殊鋼に関心のある者となり、学歴・性別・年齢などは問いません。講座時間は6時間となり、1日で修了します。

あらためて各支部事務局より開講のご案内を致しますので、受講される方は開講予定の各支部事務局へ申し込んでください。

支部名	開講日	会場
東京支部	平成27年4月18日(土)	東京・鉄鋼会館
大阪支部	平成27年4月14日(火)	御堂会館
名古屋支部	平成27年4月22日(水)	東桜会館
北関東支部	平成27年5月13日(水)	足利地場産業センター

(2)「3級」研修講座

また、5月上旬～7月初旬にかけ各支部に於いて「3級」講座を開講する予定です。

研修内容は特殊鋼の基礎知識で、構造用鋼、工具鋼、ステンレス鋼などを30時間の講座にて習得した後、全国一斉に検定試験を実施(7月8日)する認定制度になっております。

「3級」講座につきましても各支部より開講のご案内をいたします。詳細につきましては各支部事務局にお問い合わせください。

編集後記

すてぃーる55号を発行致します。皆様に、今号が届くころはめっきり春らしく櫻の声も聞こえ始める頃でしょう。全日本特殊鋼流通協会も新たな年度を迎えようとしています。新規加入会員の皆様、心より歓迎いたします。佐久間会長を筆頭にさらに、皆様のおやくにたてる全特協を目指しておりますので、応援の程何卒よろしくお願いいたします。

さて、今号は各地で開催された新年賀詞交換会の模様を中心に伝えております。若干足踏み状態の特殊鋼需要

ですが皆様のお顔はやる気で満ちてるように感じています。

オリンピック、震災復興、リニア等先行きの期待が膨らんでいる今年です。イスラム問題、原油安と不安要素もありますが、何はともあれ災害のない一年であればと願っております。

皆様のお会社、社員、御家族がおだやかな上昇気流にのれますように……

広報委員会委員長・広報誌発行責任者／久木田 至